

みやま市地域公共交通網形成計画(素案)に対する意見と対応

番号	意見の該当箇所	意見の概要	回答
1	<p>P94 7. 目標を達成するための施策施策⑳自動運転技術の導入の検討</p>	<p>自動運転実証実験後の実用的な取組みを明確にする。</p> <p>理由 全国数多くある地方からみやま市が自動運転の実証実験に選ばれました。実験で大切なのはその後です。これから高齢化していき交通事故は増えることが見込まれます。自動運転で事故が防げるのであればそれに越した事はありませんので、今後の取組みを明確にしてください。</p>	<p>平成29年度、国土交通省において、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保を目的とする自動運転サービスの実証実験が全国で行われ、本市でも平成30年2月に市役所山川支所を拠点として実施されました。</p> <p>この実証実験後の取組みについては、計画(素案)のP94にお示ししているように、平成30年度～31年度にかけて、実証実験の効果や課題の検証を行い、その結果を踏まえ実現性の検討を行うこととしています。市といたしましては、今後、移動手段の確保など地域の活性化を図るため、自動運転技術の導入に向けて検討を進めていきます。</p>
2		<p>コミュニティバスと福祉バスの2重交通を廃止する。</p> <p>理由 くすっぴー号が3月から運用開始になりましたが、明らかに税金の無駄です。利用者が限られている無料の福祉バスとほぼ同じルートで走らせる有料のコミュニティバスは悪循環が目に見えています。しかも、どんなに利用しても負担増になる低運賃です。 くすっぴー号に、バス購入費やラッピング費等が発生してもう引き返せないと思いますので、福祉バスを廃止して、これまで福祉バスの利用者対象者はコミュニティバスを無料とし一本化を直ちに行うべきです。(その場合一般運賃は上げるべき) 市民の声でもあるように、市民が望んでいるのはコミュニティバスではなく、デマンド運行です。それを費用対効果で無駄だと回答してあるのに、市民が望まない有料バスを運行させるとは、税金の使い道を考え直してほしいです。</p>	<p>計画(素案)P23、2-5. 公共交通の現状 ④コミュニティバス(旧福祉バス)に記載しているように、コミュニティバスは、これまで運行していた福祉バスに代わり平成30年3月より運行を開始したものです。 ご意見をいただいておりますとおり、コミュニティバスと福祉バスの重複運行は行っておりません。</p>